

解 答

- 問一 生物学的には、人間の全身の細胞が順々に死んでいくのが「死」で、生死は明確に区切れるものではないから。
- 問二 ア
- 問三 ア
- 問四 家族や親しい人がその人の死を納得したとき初めて成立するもの
- 問五 赤ん坊のときから臨終の瞬間までの全部を照らし出すような場所にある
- 問六 大人になって、老人になって、その次に死がやってくる〔という仏教的な考え方を否定してしまったということ。〕
- 問七 (ア) 議論 (イ) 看病 (ウ) 無意味 (エ) 過程 (オ) 部屋
- 問八 イ
- 問一 世津と同じように、聡子ものり子といっしょにいるとうんざりして迷惑に感じており、聡子が私立中学に行くまでの辛抱だと考えているにちがいないこと。
- 問二 仲間はずれ
- 問三 嘘
- 問四 エ
- 問五 ア
- 問六 のり子のいいなりにらずに、対立を恐れず正直に本当の気持ちを言うこと。
- 問七 一 オ ニ ア 三 ウ 四 イ 五 エ
- 問八 イ

解 説



出典：吉本隆明「13歳は二度あるか」

- 問一 (1)『今、この瞬間に死んだ』とは言えない」理由を答える問題です。25～27行目をまとめ、文末は「～から」とします。
- 問二 空らん(2)に当てはまる漢字を答える問題です。30行目に、「点や線ではなく、(2)であるということは」とありますので、アの「幅」を選びます。
- 問三 空らん(3)の直前に注目してください。「人工呼吸器をつけないで」とありますので、ふさわしいのはアの「自発的」です。
- 問四 筆者の死に対する考えを答える問題です。傍線(4)よりも前の部分を用いるよう指示がありますので、21行目「家族や親しい人が、その人の死を納得したとき初めて、『死』は成立するというのがぼくの考えです。」という部分を用いて答えます。
- 問五 抜き出し問題です。「別の系列」という言葉について説明している部分は、65行目から始まる段落と、68行目から始まる段落の二箇所がありますが、制限字数に当てはまる68行目のほうを選びます。
- 問六 抜き出し問題です。「という仏教的な考え方」について述べている部分を探し、71行目から始まる段落から抜き出します。
- 問七 小学校で学習する漢字から出題しています。
- 問八 本文に合うものを選ぶ問題です。
- ア 「死を生とは別の系列の特殊なものと見なす偏見」の部分が間違いです。
- イ こちらが正解です。49～59行目あたりを言い換えたものです。
- ウ 「今後の医学の発展により、回復する可能性も十分にある」という部分が間違いです。
- エ 「世界の仏教の歴史の中でも最もめずらしい天才的な人物」という部分が間違いです。



出典：草野たき「ハッピーノート」

- 問一 傍線(1)「聡子も」とありますので、聡子が誰と同じ考えを持っているのか考えます。14、16～18行目から、世津であることが分かります。続いて「そう」という指示語の内容について考えます。16～18行目か

ら、「世津がのり子に助けてもらったり、手伝ってもらった時に迷惑に思っていたということ」「いっしょにいるのは、私立の中学に行くまでの辛抱だと思っていたこと」以上の2点をまとめます。

問二 聡子がのり子に何をされることを恐がっているのが答える問題です。84～89行目を読むと、今までのり子以外の友人たちを巻き込んで、聡子だけを置いてどこかに行ってしまう意地悪をしてきたことが分かります。制限字数に合う「仲間はずれ」を抜きだします。

問三 「もう(3)はやめようと思った」とありますが、聡子は何をやめようとしているのでしょうか。56行目の「正直に言おう」および、74～75行目の「もう嘘はイヤ」という表現から、「嘘」を抜き出します。

問四 情景描写を読み取る問題です。

ア 太陽が沈んでいく様子を見ているのは聡子であり、この場面からのり子の心情を読み取ることはできないので誤りです。

イ 聡子とのり子の関係が「手遅れ」という部分が誤りです。

ウ 聡子のはのり子を傷つけると分かった上で正直に自分の気持ちを伝えました。66行目に「ちょっとでも立ち止まったら、動けなくなりそうだった」とあるように、「晴れ晴れ」とした気持ちは読み取ることができません。

エ 72～75行目から、聡子のはのり子との今までの関係を変えるために思い切って正直に語ったことが分かります。傍線部の情景描写もまた、一日の終わりです。正解はエです。

問五 ア これが正解です。134行目にのり子が意見をゆずったのは「初めて」とあります。また136行目からのり子が「ちょっと照れている」ことも分かります。

イ 「みじめ」という部分が誤りです。

ウ 「ほっとしている」という部分が誤りです。

エ 「張り合いがない」という部分が誤りです。

問六 148、149行目の部分から、「正直に意見を言う」「相手とぶつからないようにする」の2点をまとめます。

問七 「顔」を使った慣用句を問う問題です。

問八 ア 96行目から「口をきかずに、もくもくとパンや牛乳を口に運んでいた」ことがわかるので「気持ちがほぐれていった」は誤りです。

イ これが正解です。114～115行目を言いかえたものです。

ウ 118～123行目を読むと、のり子がじゃんけんで何をするか決めていることが分かるので「根負けした」は誤りです。また、124行目「意見がぶつかることに疲れ」てしまったのであり、「自分に正直でいることに疲れてしまった」ではありません。

エ 「のり子が嘘をつくのをやめた」とありますが、本文からは読み取ることができない内容です。